

薬学教育協議会 オンライン シンポジウム

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）について」

薬学教育モデル・コア・カリキュラム （令和4年度改訂版）の考え方



文部科学省高等教育局医学教育課
薬学教育専門官 大久保 正人

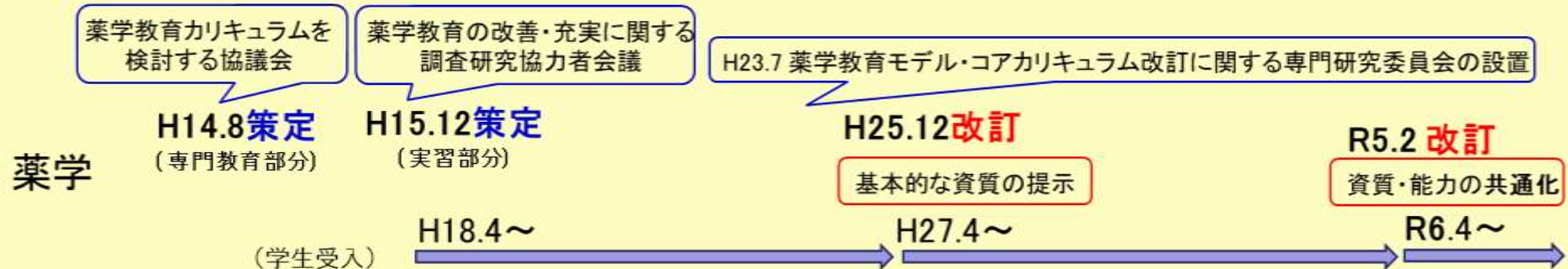
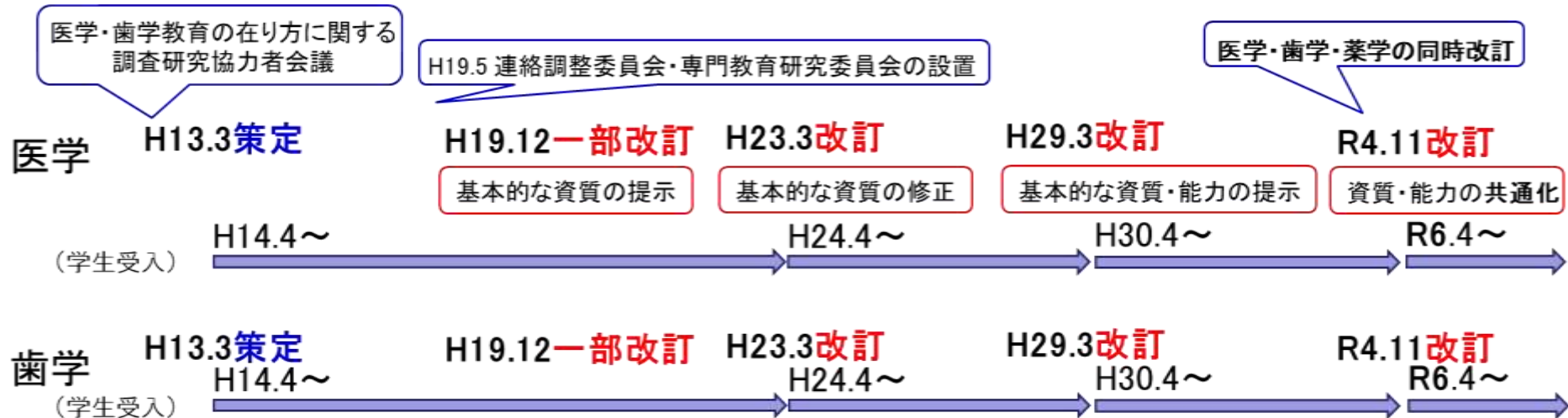


文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和5年4月12日

- ① 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方
- ② 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要
- ③ A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
- ④ B 社会と薬学
- ⑤ C 基礎薬学
- ⑥ D 医療薬学
- ⑦ E 衛生薬学
- ⑧ F 臨床薬学
- ⑨ G 薬学研究
- ⑩ 薬学教育モデル・コア・カリキュラム今回の改訂までの経過
- ⑪ 検討組織の設置・委員名簿
- ⑫ 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧
- ⑬ 略語集

医学、歯学、薬学、看護学のコアカリ策定・改訂の変遷



- 「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を生涯にわたって研鑽し獲得するため、6年制薬学教育で卒業時までには学ぶ基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学等の知識や技能を修め、薬剤師として社会で活躍できる能力の修得を目的に作成されている
- 薬剤師は、医薬品の製造、調剤、供給における任務を遂行し、適切に品質管理された医薬品を過不足なく効率的に国民に提供するとともに、広く薬事衛生、患者・生活者の健康増進等に寄与する社会的責務を担うことが求められる
- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分であり、学修時間数の7割程度を目安としている（残り3割程度は、3つのポリシー等に基づき各大学が自主的・自律的に編成）
- 令和4年度は、医療人として共通の価値観を共有すべく、医学・歯学・薬学で同時に改訂

キャッチ フレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」



人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、新興・再興感染症や災害リスクなど様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯にわたって活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を培い、多職種で複合的な協力をを行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。さらには、ビッグデータや人工知能（AI）を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

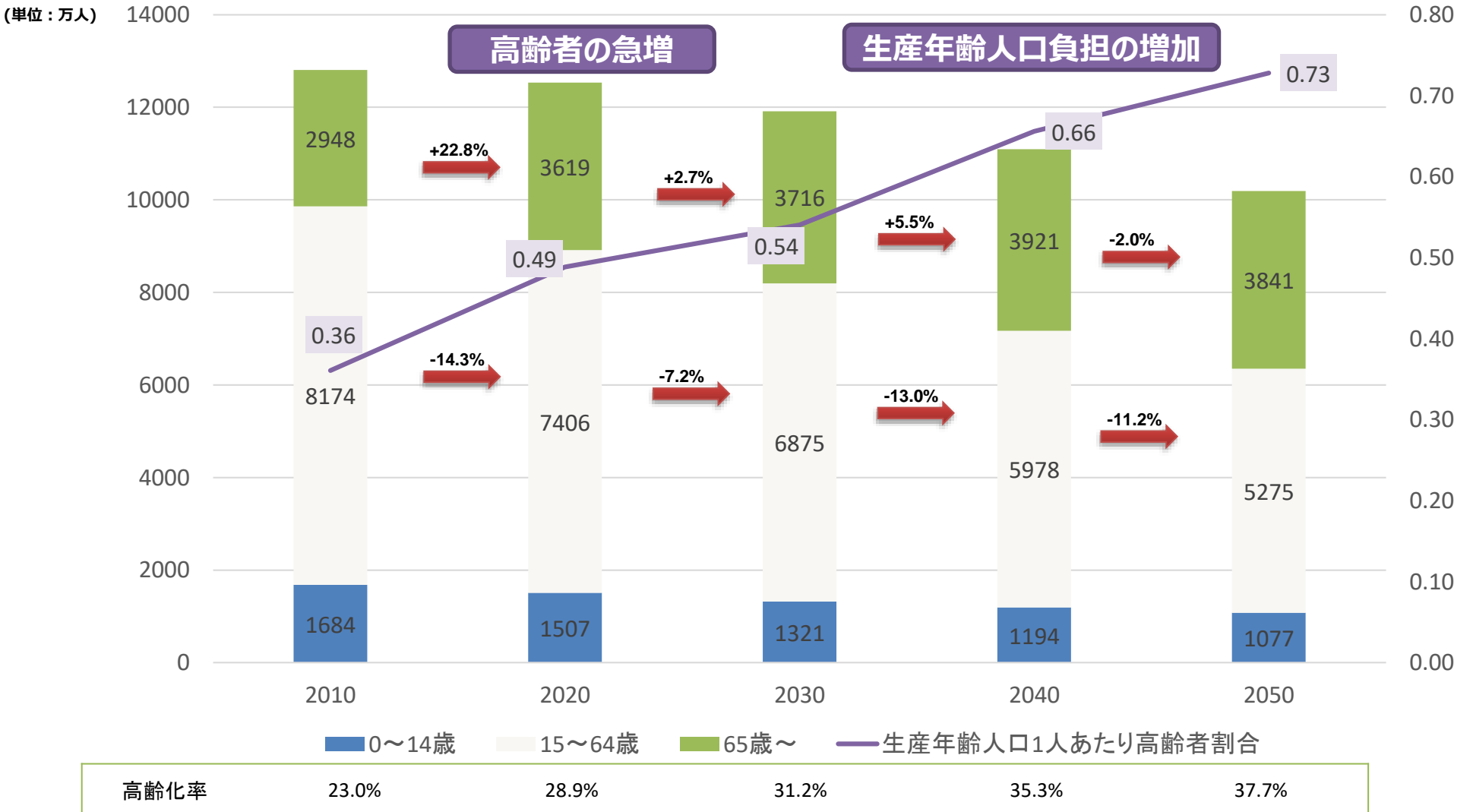
薬学教育モデル・コア・カリキュラム 改訂の基本方針

- 1.大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容
- 2.生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
- 3.各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
- 4.臨床薬学という教育体制の構築
- 5.課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
- 6.医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化



2050年までの人口構造の変化①

- 高齢人口のピークは2040年頃。ただし、2040年以降も高齢化率は上昇を続ける。
- 生産年齢人口負担は、2040年以降も増加を続ける。

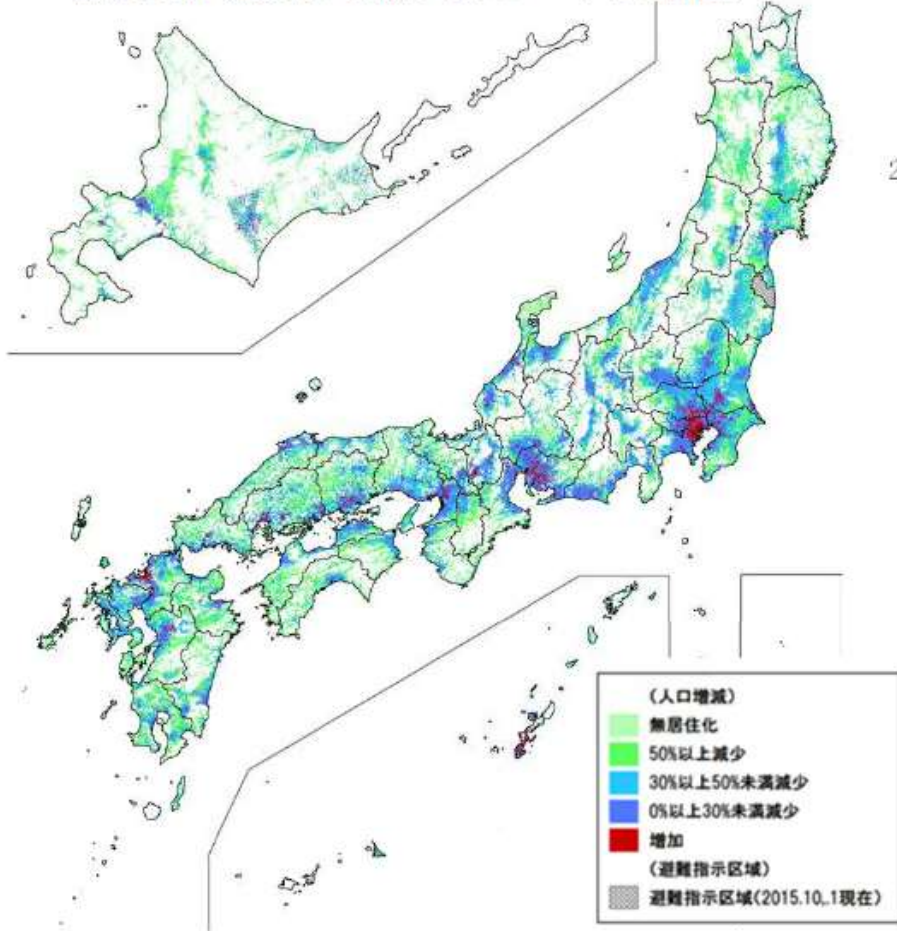


(出典)総務省「国勢調査」「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 平成29年推計」

2050年までの人口構造の変化②

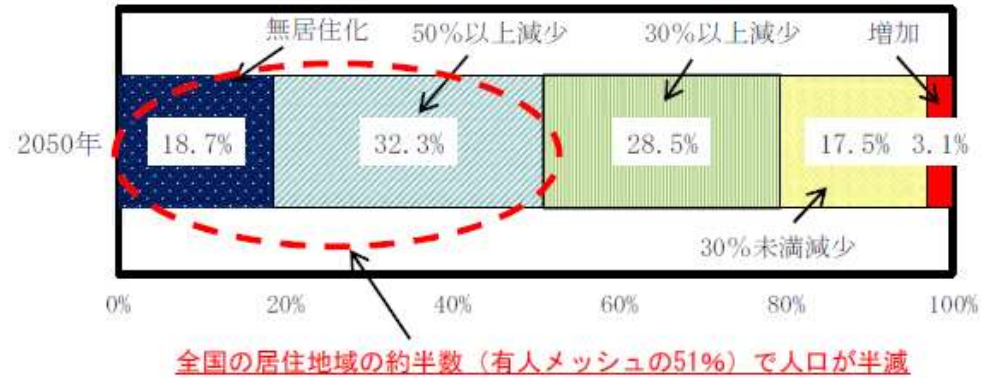
- 人口が半分以下になる地点が全国の居住地の5割以上
- 人口が増加する地点の割合は約3%

将来の人口増減状況（1kmメッシュベース、全国図）

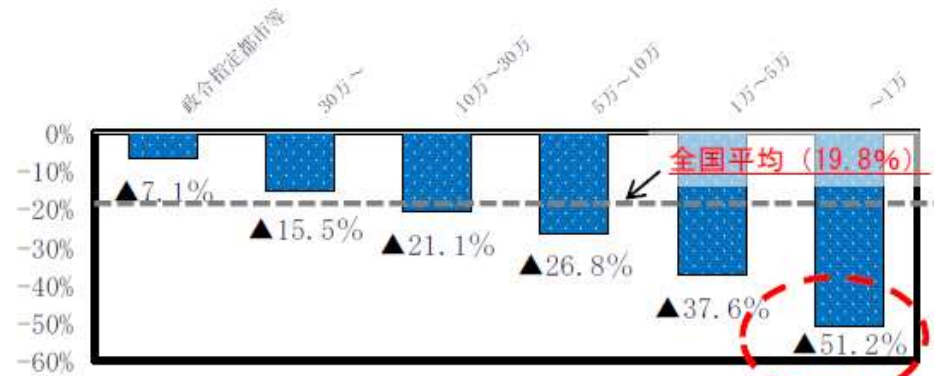


出典：「国土の長期展望」最終とりまとめ参考資料
（令和3年6月国土審議会計画推進部会国土の長期展望専門委員会）

人口増減割合別の地点数（1kmメッシュベース）



市区町村の人口規模別の人口減少率



- (備考) 1. 総務省「平成27年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」等より、国土交通省国土政策局作成。
2. 左図で、平成27年国勢調査時点（平成27年10月1日現在）における避難指示区域を黒塗り（斜線）で示している。

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ

令和3年6月30日（抜粋）

1. はじめに

・これまで、医療の高度化・複雑化や少子高齢社会の進展等の状況の変化により、「患者のための薬局ビジョン」における、かかりつけ薬剤師・薬局の推進、医療機関における**チーム医療の進展**、**地域包括ケアシステム**の一員としての薬剤師の対応など、薬剤師に求められる役割や業務内容が変化している。

2. 今後の薬剤師に求めるべき役割及びそれを踏まえた需給推計

(1) 今後の薬剤師が目指す姿

①薬局

・地域包括ケアシステムの中で役割を果たすためには、各地域の実情に応じ、他の職種や医療機関等と連携し、患者に対して一元的・継続的な薬物療法を提供することが重要

②医療機関

・チーム医療の推進により、多職種と連携しながら病棟の薬剤業務の充実が求められている。

3. まとめ（提言）

②薬学教育（カリキュラム）

- ・**多職種連携**、患者との対話を通じた薬学的知見に基づく指導を適切に行うためには、コミュニケーション能力を身につけることも必要。さらに充実させるべき。
- ・**他職種の学部・大学との連携**を含め、臨床現場の実態が学習できるようなカリキュラムとすべきである。

提言 持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽

日本学術会議 薬学委員会 薬剤師職能とキャリアパス分科会

令和2年9月4日（抜粋）

2. 薬剤師職能と社会貢献

(2) 持続可能な医療を担う薬剤師・薬局のあり方

① プロフェッショナリズム

- 厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会報告書（平成22年3月）によれば、「チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、**目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完**し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義されている。**チームを構成するそれぞれの職能を尊重することで、最善の医療を完遂することが可能**となる。
- 薬剤師としての倫理観の涵養とプロフェッショナルとしての自律（オートノミー）の確立は薬剤師に求められる極めて重要な要件である。

② 医療機関と薬局の連携

- 地域包括ケアシステムにおいて、薬剤師・薬局はその役割の一翼を担い医療機関等や多職種と連携して適切な役割を果たすことが求められている。

④ コミュニケーション

- 医療機関や地域のチーム医療においては、多職種のメンバーとの情報共有が必要となり、ここでは十分な薬学的知識に裏打ちされた高いコミュニケーション能力が求められる。また、今後実施可能となるオンライン服薬指導では、対面指導以上に緻密なコミュニケーション能力が必要となろう。

5. 提言

(1) 地域医療への能動的関与

- 地域包括ケアシステムの構築が進められている。薬剤師・薬局は、**多職種や他の医療機関と連携**しながら、積極的に役割分担を果たしていかなければならない。

大項目

A

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- 「医師/歯科医師/薬剤師に求められる基本的な資質・能力」を原則共通化
- 薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力とその説明文を記載



1. プロフェッショナルリズム	2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	4. 科学的探究	5. 専門知識に基づいた問題解決能力	6. 情報・科学技術を活かす能力	7. *薬物治療の実践的能力	8. コミュニケーション能力	9. 多職種連携能力	10. 社会における医療の役割の理解
--------------------	-----------------------	---------------------	-------------	-----------------------	---------------------	-------------------	-------------------	---------------	-----------------------

* 医学/歯学は「患者ケアのための診療技能」

大項目

B~G

学修目標ほか

- 大項目の学修目標（卒業時の標準的なアウトカム）
- 基本的な資質・能力とのつながり
- 評価の指針（学修目標への到達を評価する視点）

小項目

ねらい

- 他の項目との関連性を明記
- 関連の強い項目を列挙

学修目標

- 個別の知識や技能を概念的に把握する目標
- 知識や技能を活用して判断し行動する目標

学修事項

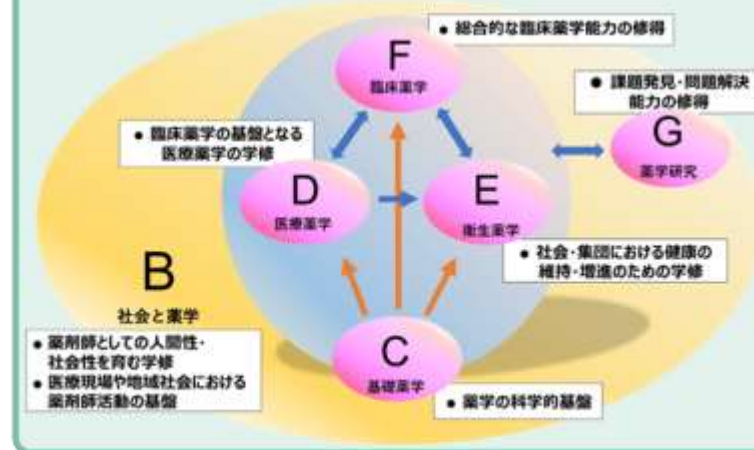
- 学修目標を達成するために必要な具体的な知識や技能・行為等
- 大学がカリキュラム作成に参考とする事項

大項目A、B~G、DPの関係

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
(生涯にわたって目標にする)

各大学のディプロマ・ポリシー (DP)
(卒業時に評価可能でAにつながるものとして策定)

大項目B~G



A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

1. プロフェッショナリズム	豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害(薬害、医療事故、重篤な副作用等)を発生させることがないように最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢	患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。
4. 科学的探究	薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。
5. 専門知識に基づいた問題解決能力	医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。
6. 情報・科学技術を活かす能力	社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。
7. 薬物治療の実践的能力	薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。
8. コミュニケーション能力	患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。
9. 多職種連携能力	多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。
10. 社会における医療の役割の理解	地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

1 基本理念と背景

- キャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」
- 2040年以降の社会も想定した医学・歯学・薬学において共通して求められる資質・能力

2 大学教育における位置づけ

- モデル・コア・カリキュラムの整理
- 臨床における実務実習の意義




3 薬剤師をめざす学生に求めたいこと

4 薬学教育に携わる各関係者にお願いしたいこと

5 患者・市民への周知や協力の依頼

薬学教育

1. 基礎資料・データ


- 薬学教育制度の概要
- 薬科大学(薬学部)学科別一覧(2022年度) (PDF:84KB) 
- 薬学系大学院専攻別入学定員一覧(2022年度) (PDF:93KB) 
- 薬学部における修学状況等
- 薬学部の6年制課程における退学状況等
- 薬学部の6年制課程における大学(学部)別の修学状況等(2022年度) (PDF:455KB) 
- 「質の高い入学者の確保と教育の質の向上に向けてのフォローアップ」に基づく各大学の情報の公表状況
- 6年制薬学教育の評価(第三者評価)(※一般社団法人薬学教育評価機構へリンク)

2. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム

<令和4年度改訂版>

- 薬学教育モデル・コア・カリキュラム - 令和4年度改訂版 - (PDF:2.32MB) 
- 薬学教育モデル・コア・カリキュラム - 令和4年度改訂版 - (Word:1.49MB)

<平成25年度改訂版>

- 薬学教育モデル・コアカリキュラム - 平成25年度改訂版 - (PDF:6.77MB)
- 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要 - 平成25年度改訂版 - (PDF:112KB) 
- 薬学実務実習に関するガイドライン等

ご清聴ありがとうございました



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,

CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN